



浜松観光ボランティアガイドの会

“はままつ案内人” 新人養成講座（後半）

【第4回 2月3日(月)】

新人参加者 16名 (男性 10名 女性 6名)

本日は、浜松城及び周辺を歩く現地研修です。心配された雨は上がり、曇りがちですが風がなく絶好の日和となりました。

9:40 新人参加者と 26 期生 8名、遠鉄アシスト 3名、研修部員他 13名の計 40名を5グループに分け天守曲輪を出発。西端城曲輪⇒天守門⇒富士見櫓⇒鉄門⇒3枚看板を 45分ほどかけて回りました。

一番の見所である石垣を中心に研修部員の熱の入った説明が続ぎ、時間超過気味でした。

そして浜松城の西側通路



天守閣前広場 出発

から美術館⇒作左曲輪⇒中央芝生広場⇒東照宮をやや駆け足して巡り、さらに玄黙口門跡⇒下垂口跡⇒瓦門跡と普段あまり行かない裏道を通り、12時前に市役所西側広場に全グループ到着しました。

新人参加者からは、研修部員の情報量に圧倒され感嘆するとともに、覚えきれないとの声がありましたが、今回だけでなく繰り返し学び、実体験することで徐々に身に着いていきますと、先輩としてアドバイスがありました。

【第5回 2月10日(月)】

新人参加 18名 (男 10名 女性 8名)

今回は研修部員による「浜松あれこれ」という講座でした。

最初に原田隆史さんが、郷土の発展に尽くした偉人たちについて紹介し、だもんで“やらまいか精神”で浜松を盛り上げ、浜松の魅力を発信していく人になってほしいと話していました。

次に鈴木隆久さんが浜松の産業と観光における多くの日本一を紹介しました。例えば全国市区町

村の面積ランキングでは、浜松市は2位ですが、意外と知らない1位は高山市で、3位は日光市だそうです。併せて知っておくと話題が増えますね。

【第6回 2月17日(月)】

新人参加者 19名 (男性 10名 女性 9名)

本日の講座は、研修部員による「家康の散歩道」です。前半は渥美明さんが、家康の遠江侵攻から終戦までの浜松の町の歴史を振り返り、その後リーフレット家康の散歩道の城内・城下ルート(①浜松城～⑫家康公鎧掛松)を丁寧に説明しました。

後半は益田啓子さんが、リーフレットの合戦ルート(①浜松城～③本多肥後守忠真の碑～⑩太刀洗の池)を説明しました。①～⑬の間は遊歩道を通るコースを選定し、旧奥山線を詳しく説明しました。それぞれ個性溢れる説明でしかも分かり易く、3月に実施される予定の現地研修につながるものと思います。

【第7回 2月24日(月)】

新人参加者 16名 (男性 8名 女性 8名)

いよいよ今回が最後の講座、浜松在城期の家康



大見会長を中心に新人参加者の皆さん

についてです。前原福子さんは、戦いに明け暮れていた家康について説明し、後に天下人になるための礎をここ浜松で築いたと話していました。最後に、事務局より入会手続きがあり新人養成講座受講生の皆さんの内、当日欠席者3名を含めて、19名が入会の申し込みをしてくれました。

広報部 長田勝久 (西ブロック)

広報部 伊藤英典 (東ブロック)

2月1日(土)、「JR東海さわやかウォーキング」に参加してきました。このさわやかウォーキングは、JR東海が1994年からスタートして、今年で32年目を迎える歴史あるイベントです。

今回は遠州鉄道の共催を得て、遠州鉄道の上島



夏目吉信碑を見学する参加者

駅を出発。三方ヶ原合戦ゆかりの地を巡り遠州八幡駅まで約10kmのウォーキングコース。戦に関連する史蹟の他、戦の伝説にまつわる小豆餅を提供するお店などもコースに入っているため、参加者のおなかも満足させてくれました。参加者の大部分は何十回も

参加している常連さんで、その方々にお話を聞くと、「毎週土曜日か日曜日のどちらかに参加しています。町並や風景を自分の目で見て肌で感じるのが楽しい」、「今回は歴史的な名所を歩くコースですが、史蹟巡りよりも健康のためにウォーキングをしています」など、歩くことを目的にしている人が多かったです。

「実際に三方ヶ原合戦が行われた所を歩き、昔の面影をたどりたかった」という歴史好きの参加者もいたため、犀ヶ崖資料館から浜松城への遊歩道を紹介したら、大変喜んでくれました。

約3時間半をかけて、無事八幡駅に到着。このウォーキングのもう一つの魅力は、最終目的地でポイントをゲットでき、貯まったポイントに応じて素敵な賞品を貰えることです。

早春のさわやかな空気に包まれながらウォーキングを楽しんではいかがでしょうか！

広報部 長松谷晃徳(東ブロック)

富士山の日記念ウォーク いかまいか佐鳴湖！

スタート

9:00 富塚花見台駐車場出発

2月23日(日)氷点下に冷え込んだ朝、参加者70人が10グループに分かれ、準備運動をして出発しました！



①石仏を見てから急な坂を佐鳴湖へ

大坂の陣後、信州に逃れる途中倒れた真田信繁の九女阿保姫(あやすひめ)の供養のためと伝わる多くの石仏を見つつ佐鳴湖畔へ。



②伊能忠敬の碑

江戸幕府天文方の伊能忠敬一行が測量をした地点に記念碑があります。当時の日誌には、富士山やその他の山を測量したことが書かれています。この日も富士山、竜頭山や雪を頂いた南アルプスが見えました。伊能忠敬は、遠江を2度訪れたそうです。

③野鳥の会の協力によるバードウォッチング

今回のウォーキングの魅力は、野鳥の会 西村幸近さんに佐鳴湖に棲む様々な野鳥の生態を解説していただいたことです。チツと鳴いているのは、この時期まだホーホケキョと鳴けないウグイスであること。26種もの多くの野鳥が見られること。しかし、カモ類の数は、佐鳴湖では年々少なくなっていることなどを教わりました。



ゴール!

12:00 全員無事に到着

磐田市の参加者からは、「佐鳴湖っていい場所ですね。このイベントを知らなかったら、佐鳴湖を知らずにいたかも知れない。」とうれしい感想が聞かれました。

⑤源範頼の別邸「御茶屋」跡

最後の見どころは、蒲神明宮の神官藤原範季に養育されたという蒲冠者源範頼の御茶屋跡を訪れました。丁度、満開の梅の木が立っている場所に当たるそうです。



④木道とダンチクの茂み

湖岸は木道が整備され、湿地も安全に歩くことができました。岸边にはダンチクというイネ科の植物が繁茂しています。頑丈で柔軟性に富むため、木管楽器のリードの材料になるとのことです。

広報部 馬淵 豊(南ブロック)

会員の交流広場

ミュージカルゆかりの地を巡る旅



年末年始に10日間で2カ国3都市、38カ所巡る旅へ。まずはパリ。1980年パリで初演のミュージカル「レ・ミゼラブル」が、フランス独自の



シャトレ座の客席

新しい演出で上演されることを知り、数カ月前からチケットを取って楽しみにしていました。

劇場は1862年建築のシャトレ座。内装が豪華で宮殿のような装飾の部屋もあり開演前から楽しみでした。席は最前列中央付近でオーケストラピットが無く、舞台に軽々手が届く近さ。あまりの近さに少々不安を覚えました。音楽は足の裏から伝わり、物語は眼前で展開し、臨場感たっぷりでした。初めての演出を目の当たりにして、改めて本作の奥深さを知りました。観劇後はモデルとなった地を歩き、舞台の余韻に浸りました。次はパリから飛行機で2時間弱のウィーン。

ここでの目玉はシェーンブルン宮殿です。



庭園からのシェーンブルン宮殿

ミュージカル「エリザベート」に登場するオーストリア・ハンガリー帝国皇帝フランツ・ヨーゼフ1世と皇后エリザベートが暮らした場所を一目見たい思いで訪れました。1696年から建築が始まり、マリア・テレジアの時代に大改築されたハプスブルク家の夏の離宮は、全部で1441室あり、そのうち40室を見学。部屋毎にコンセプトがあり、どの部屋もみんな違ってみんな良かったです。皇帝の執務室や皇后の部屋等、舞台上で観たシーンの“本物”がそこにあり、感激の連続でした。

その他、ミュージカル「モーツァルト！」に登場するザルツブルクも訪れました。時差ボケと戦いながら駆け回った濃密な10日間、今後の舞台観劇がより一層楽しくなりそうです。

東ブロック 飯田梨恵

会員の交流広場

東海道五十三次

姉妹で頑張って歩いています

妹に誘われて始まった東海道五十三次ウォーク。「何年かかるかわからないよね～」と、少しでも若いうち？に難所だけは終えること。そして、次の日に休めるようにできるだけ土曜日に日帰りで行くこと。暑さを避け、歩くのは11月から4月までと計画しました。



瀬田の唐橋

歩き始めてからは昔の人々に感心するばかりでした。今のような靴も服もなく、朝から30km以上歩くとはい！体力？動かし方？想像がつきません。

日坂、箱根、鈴鹿を越えてからは、ひたすら歩く旅した。私自身、富士山がきれいに見えるだけで気分が上がりました。そんな道中の楽しみであり、励みになったのが、海や山の景色だったのだろう

と実感しました。

静岡県は距離があってもその点良かったです。薩埵峠からの駿河湾は最高でした。街道にはわかりにくい分岐点、丁寧



近江富士「三上山」

な標識のある場所と様々です。同じ目的で歩かれている方々にもすれ違いました。既に体験された方の写真やコメントも参考になりました。

姉妹二人の旅の楽しみはおしゃべりとその土地の甘い物。開店前や売り切れで残念なこともありましたが…。そんな旅も残りわずかとなりました。京都ナンバーの車を見かけたときはゴールが近づいたんだと嬉しくなりました。あと少し頑張ります。自身の健康に感謝です。

北ブロック 古橋順子

会員の交流広場

浜松の魅力発見！

「万人講」と「横尾歌舞伎」

1月19日(日)念願の雄踏歌舞伎「万人講」を浜松観光ボランティアの先輩と見に行きました。

雄踏の農村歌舞伎「万人講」は江戸時代末期に始まり、昭和27年に途絶えて36年、平成元年に復活して今年でちょうど36年目。

地元の中学生2人による「寿式三番叟(さんばそう)」から演目は始まりました。白塗りに派手な衣装の2人が、五穀豊穡を祈り、軽快な鼓の調べに乗せて舞う。時折踊り疲れて休もうとする場面もあり、最初から舞台に惹き込まれていきました。コミカルでわかりやすい話と踊り、入場料無料とは思えない素晴らしい舞台でした。

また2月2日(日)は引佐の「横尾歌舞伎」の特別公演を友達と見に行きました。

江戸時代前期から伝わる素人農村歌舞伎で、常設舞台が設けられていたと伝えられ、現在は「開明座」が舞台と資料館の役割を担っています。三味線、浄瑠璃、化粧、着付けにいたるまですべて地元の人の手により運営されており、10月の定期公演は毎度満席になる賑わいとか。この日も1時間前から席取りをしていた団体あり、私たちも右にならえで客席へ。初めての場所、初めての本格的な歌舞伎の舞台、何を見るも面白い。



「寿式三番叟 宝の入船」の様子

席は床の上に板を渡して四角い「枅席」になっていて、満席になってもそこが通路として歩けるようになっていました。

舞台は演目の間20~40分程の休憩時間を入れ、作りかえるので、合間に甘酒を振る舞うサービスがあったり、お弁当を自由に食べたり、おひねりを準備したり。何も知らない私達に地元の方がおひねり投げ体験をさせてくれました。

雄踏歌舞伎も横尾歌舞伎も少子化による後継者不足が問題で、他地区からの受け入れも。機会あればボランティアガイドの会の皆様もお孫さんと舞台に足を運んでみてください。

中ブロック 久保田絢子

2月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

8日 土	旅人企画	31名
18日 火	信用会兵庫県(長野市)	17名
22日 土	メッキ研究会	9名
23日 日	積志すいせん会	12名

《浜松まつり会館》

3日 月	安曇野市商工会堀金支部	16名
20日 木	静岡北特別支援学校 高校生	30名

《犀ヶ崖資料館》

1日 土	さわやかウォーキング	700名
14日 金	クラブツーリズム 姫街道を歩く	14名
18日 火	大東建託(株)名古屋 JTB	12名

《同行ガイド》

18日 火	クラブツーリズム関西	16名
-------	------------	-----

《ふるさと講座》

実績なし

はままつ案内人会報 272号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中央区元城町100-2 (浜松城内)
TEL 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ <http://www.hama-svg.jp/>

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地